

地震の前にできたこと、今しませんか

〜平成30年北海道胆振東部地震〜

寝静まる未明のまちを襲った平成30年北海道胆振東部地震。約2日間に及んだ停電や昼夜を問わず続いた余震により、眠れぬ日々を過ごした方も多かったのではないだろうか。

市内では、一部の家屋などの損壊が発生し、また、登別市の基幹産業である観光業においては、地震による不安などから、客足が遠のくなど、現在においても、大きな影響を与えています。

災害は、いつ、どこで、どのような規模のものが発生するかわかりません。今回の災害を糧に、そのときのために、今、備えを見直しませんか。

停電から復旧し始めた国道36号沿線（9月7日(金)午前0時ごろの登別市栄町付近）

深夜に発生した『震度5弱』



観測したマグニチュード6.7の『平成30年北海道胆振東部地震』は、大規模な土砂崩れや液状化現象を引き起こし、また、北海道内の電力の大部分を賄っていた厚真町の大規模な火力発電所が損傷し、作動停止したことなどから、地震発生直後に北海道全域が停電に陥りました。

多くの人が就寝していた午前3時7分。市内においては、観測史上初となる震度5弱を観測しました。

突然の激しい揺れや携帯電話などから流れる緊急地震速報で飛び起きた人も多かったのではないだろうか。

北海道内で初めてとなる最大震度7を

市は、平成24年11月の大規模停電時に防災拠点となる市役所本庁舎において、照明をはじめ、電話やパソコン、テレビなどが使用できないことで情報収集に苦慮した経験があります。

その教訓から、非常用発電機を設置しており、市役所本庁舎2階の防災担当執務室に電力を確保し、照明がつく室内で、